

代表質問・一般質問・質疑の概要

発言順	質問・質疑の別	議席・氏名	質問・質疑の内容（通告原文のとおり）
1	代表質問 (総括質問)	14 中村 義彦  野々市 フォーラム	<p>1 令和6年度当初予算の方針について</p> <p>(1) 令和3年度から令和5年度までの3箇年を「財政健全化集中取組期間」と位置付け、財政改革（強化）に取り組まれてきました。3年間取り組んでこられた事により、どのような成果が生み出され、当初の目標や目的が達成できたのか、見解を伺う。</p> <p>(2) 令和6年度予算編成は1月に発災しました能登半島地震に伴い、各種計画・実施事業の修正や一部見直し等を行わざるを得ない状況になっているのではないかと考えますが、新年度予算編成の主要事業にはそれぞれどのような思いが込められているのか部局別に見解を伺う。</p> <p>(3) 今回の災害により、国・県からの交付税等の歳入見込みに大きな変化や影響があるのか見通しを伺う。</p> <p>(4) 今回の災害を踏まえて、各事業の基本計画及び実施計画で前倒しや見直しなどを優先的に検討していきたいことがあるのか見解を伺う。</p> <p>(5) 我が国の水道普及率は98%を超え、世界トップクラスであり、厚生労働省の法定基準で安心して水道水をそのまま飲むことが出来るのは、アジア圏で唯一日本だけです。今回の能登半島地震から本市の水道事業に関する市民の関心が高まっています。市民の生活を守る「野々市水道事業ビジョン」の進捗と今後の具体的な取組みについて、財政面も含め短期的・中長期的視点で市長の見解を伺う。</p> <p>(6) 新年度予算2億400万円計上の「野々市中央公園拡張整備事業」について、本事業のテーマである「健康・交流・防災」は、将来都市像の重点ポイントの1番目に掲げた「安心安全なまちづくりの推進」に大きく関連することであり、防災というキーワードを野々市中央公園拡張区域にどのような形で具現化していくのか、市長の描くデザインと骨格を伺う。</p> <p>(7) 市職員の勤労について、職員のモチベーションを保ち続ける取組みや資質向上に向けた職員研修・職員教育が益々重要であり、適正な職員数の確保、人格識見ともに優れている人材の確保や登用、山積する行政課題に果敢に取り組んでいく職員を育成していくことが一層の急務になってきている。市長の描く職員像とその実現に向けた方策を伺う。</p> <p>(8) 広域連携について、白山野々市広域事務組合では、本市も負担金や職員派遣など応分負担を致しながら共同で運営を致しております。近年の行政課題である斎場の老朽化・消防施設の適正化などについてはどのような議論の進捗になっているのか市長の見解を伺う。同じく白山石川医療企業団では、ハード面や運営面について、どのような行政課題が議論となっているのか本市の立場と市長の見解を伺う。また、4市2町で構成する石川中央都市圏の中で事務効率や共通する行政課題解決に向けた新年度の新たな取組みが検討されているのか伺う。</p>
2	一般質問 (一問一答)	3 中村 和流	<p>1 令和6年能登半島地震について</p> <p>(1) 発災直後の市職員参集の状況、拠点避難所・予備避難所等の開設、避難者数、結ネットでの市民の安否確認状況などについて伺います。</p> <p>(2) 今回、野々市市役所を臨時的な避難場所としたことに関して、今後、市役所に避難所機能を持たせるのか伺います。</p> <p>(3) 福祉避難所は、災害時の避難者のうち、「高齢者」「障害がある方」「妊産婦」「乳幼児」「病弱者」「医療的ケア児」といった避難所生活において何らかの特別な配慮を必要とする方を受け入れるための避難所です。本市で特別な配慮に応じて避難先をあらかじめ示す「指定福祉避難所」を指定するお考えはないでしょうか。そして、指定福祉避難所の対象を明確にして、平時から市民にその対象者をご理解いただき、その避難所を利用する配慮が必要な方には実際利用する場合も検討しご理解いただくようにするべきではないかと思いますが、見解を伺います。</p> <p>(4) 広域避難を視野に入れて市外・県外の福祉施設等と福祉避難所の開設及び運営に関する協定を結ぶことが重要と考えますが、見解を伺います。</p>

発言順	質問・質疑の別	議席・氏名	質問・質疑の内容（通告原文のとおり）	
2	一般質問 (一問一答)	3 中村 和流	(5)	<p>輪島市鶴巣地区から避難された方々の二次避難施設となっている市内の公共施設2箇所には現在80名あまりの避難者がおられ、市職員が24時間体制で対応しています。</p> <p>今後、二次避難施設を退去されてみなし仮設住宅等に住む被災者について、二次避難施設に避難している方と同様に支援を継続すべきと考えますが、見解を伺います。</p>
3	一般質問 (一問一答)	15 岩見 博	<p>1 能登半島地震と本市の地域防災計画について</p> <p>(1) 1月1日の夜、御園小学校では子どもを含め50人程の方が避難されていたが、暖房は広い体育館の中にストーブが4台だけ、冷たい床にゴザを敷いただけで、毛布にくるまわっていても床の冷たさはさすがに体を休めることができるものではないと感じました。朝方になればさらに冷え込みます。12月議会で、学校体育館の空調設備の整備について、大久保教育長は、「事業実施の方向で検討していきたい」と答弁された。今度の地震を受け、新年度予算に体育館などに空調設備を整備するための実施設計費が計上された。学校体育館は野々市中学校だけとなっていますが、残る6校の整備計画も優先的に進める必要があると思うが考えを伺う。併せて、整備を予定している施設は何か所で、何年計画で進められることになるのか。</p> <p>(2) 御園小学校の避難所では、段ボールパーティションは数組ありましたが、段ボールベッドがありませんでした。防災訓練では紹介されているのに、この一大事になぜ使われていないのか。防災訓練が生かされていないのでは。</p> <p>段ボールベッドは249組のうちの235組が、パーティションは251組のうちの227組が本町6丁目の倉庫に備蓄されている。これでは必要になった時にそれぞれの避難所に運ぶための人手が必要で、大きな災害の時には市職員は連絡や人員確保などあらゆる対応に手を取られることになり、限られた職員数の中で余裕がないということで搬送が後回しにされてしまうことにもなりかねない。今度の地震を教訓として、緊急時に素早く対処できるように、各倉庫、防災センターに分散して備蓄する必要があるのではないか。</p> <p>(3) 能登半島地震の被災者は長期にわたって不便極まりない避難生活を余儀なくされている。その一つにトイレの問題がある。通常の仮設トイレは汚い、臭い、足腰の弱い高齢者には和式タイプのトイレは使いづらい、車いすでは使えないなどの理由で水分をとらないようにするため脱水症状で体調を壊してしまうといった問題も起きる。こうした問題もあって今注目されているのがトイレトレーラーで、今度の地震でも、全国からトイレトレーラーの支援が相次ぎ、被災者から喜ばれている。独自に購入する自治体はまだ多くはありませんが、今度の地震であらためて注目されており、今後、保有する自治体が増えるのではないか。本市でも、トイレトレーラーを購入されてはどうか。</p> <p>(4) 今度の地震で震度4の揺れの怖さを経験した。市長を先頭に職員も情報収集や避難所設営と運営、そして、輪島市からの避難者受け入れ等々で奔走されているが、防災訓練では分からなかった課題などが洗い出されたのではないかと。石川県の災害危機管理アドバイザーも務めてきた神戸大名名誉教授の室崎益輝氏は、「石川県内の自治体職への研修もしてきた。しかし今回の地震で避難所運営などに全く生かされていない場面や、引き継がれていない現状を目の当たりにしてきた。詰めが非常に甘かった。現場でしっかり実践されているか確認し、行政としっかり向き合うべきでした」と自己反省の弁を述べています。その上で、「今回の地震で国や行政、私も含め『こうだったからできなかった』と言いつつおこなうのではなく、『これからこうしていく』と示さなければいけない」とも述べておられる。身につまされる指摘です。</p> <p>発災から2か月が経過して、市の地域防災計画で分かった課題と、地域防災計画の見直しの必要はないか。</p> <p>(5) 今度の地震によって、志賀原発では原子炉を冷却するために外部から電気を受ける変圧器の損傷や、使用済み核燃料プールから大量の冷却水があふれ出すなどの重大なトラブルが相次いでいる。しかも原発再稼働の前提となる避難計画は、地震・津波災害に対応できないことが明瞭となった。避難計画にある道路網は隆起や地割れで損壊し通行不能になり、土砂崩れも多発して集落は孤立状態になった。逃げようにも逃げるのができない。また、避難計画は「屋内退避」が原則ですが、建物の倒壊が著しいなか、余震で倒壊の危険がある建物にとどまることもできません。今度の地震を経験して、志賀原発で放射能漏れの重大事故発生の可能性が高まっていること。避難計画が破綻している現実を私たちに突きつけた。志賀原発はもう廃炉にするしかないと思うが、市長の受け止めを伺う。</p>	

発言順	質問・質疑の別	議席・氏名	質問・質疑の内容（通告原文のとおり）
3	一般質問 (一問一答)	15 岩見 博	<p>2 介護保険料について</p> <p>(1) 昨年12月議会で、介護保険制度は3年ごとの事業計画の中で余剰金が生じた場合には基金で積み立てて、給付費の不足が生じた場合には取り崩して保険給付を提供することになっていて、必要以上の基金残高を保有することは、被保険者から預かっている保険料の使途目的として適切ではないとして、22年度決算で基金残高が8億3,000万円余の介護給付費準備基金を取り崩して保険料を引き下げるよう求めてきました。今回、介護保険条例の一部改正案が提出され、第1段階から基準段階となる第5段階の保険料を引き下げるとしています。            新年度予算の介護給付費準備基金からの繰入額は7,089万円で、その全額を保険料軽減に充てたととしても3年間で約2億1,000万円で、それでも約6億円以上の準備基金残高となる。よって、今回の引き下げは不十分で、さらに引き下げることは可能ではないか。</p>
			<p>3 日本町児童館の利用計画について</p> <p>(1) 新年度事業で、老人福祉センター椿荘、中央児童館、旧いきがいセンター矢作を一体的に改修し、社会福祉協議会の移設及び高齢者と子育て世帯が交流できるスペースの新設など、複合的に福祉サービスを提供する施設整備に向けた実施設計を行うとしている。今後、改修工事に入れば施設の利用が制限されることになり、中央児童館も一定期間利用できなくなると思うのですが、そうなると中央児童館を利用していただいていた児童の遊びの場が一時的とはいえなくなり、日本町児童館を遊びの場としてきた本町地区の児童は再び遊びの場を奪われることになる。一時的とはいえ、大人の都合で児童の遊びの場を奪うようなことはあってはなりません。日本町児童館を活用する民間事業者を公募型プロポーザルにより募集するとしてきましたが、一回目のプロポーザルでは決まりませんでした。この際、日本町児童館を児童館として開館するのが子どもたちと市民が望む一番良い方法だと思うのですが、いかがか。</p>
			<p>4 小中学校給食費の無償化について</p> <p>(1) あらたに白山市が新年度から中学生の給食費を無償化することとなった。小学生についても、財源の確保の見通しができれば実施されるとのこと。羽咋市も、新年度から0歳から2歳児の保育料を無条件で無料にするのとあわせ、学校給食費も完全無償化としている。県内でもさらに無償化の流れが広がり、加賀地域で残るは野々市市だけとなった。子育て世代を中心に、野々市でも早期実施を求める市民の声が確実に強まっていることは間違いありません。いつまでも、“国のすること”と構えていることはできないのではないか。いつの時代も政治を動かすのは市民・国民。市民が自治体を動かし、自治体が動いて国を動かしてきます。市民の声に耳を傾け、給食費無償化実施を決断されることを強く求める。そして、国の責任で無償化するよう求める力にしていこうではありませんか。</p>
			<p>5 新体育施設整備実施計画について</p> <p>(1) 本計画は、2024年度から中央公園の隣接地を用地買収し、造成・実施設計をすすめ、2029年度から建設に着手するスケジュールとなっている。計画では、あらたに屋内施設としてメインアリーナ、サブアリーナ、屋外施設として陸上競技場、テニスコート、公園などを整備し、総工事費を約70億円としています。総工事費の2分の1は社会資本整備総合交付金で充当されることから、交付対象を除く市の負担を約33億円としている。現在の市民体育館は建築後44年目となり、耐震性も旧基準となっていることから、耐震補強工事を含めた対応が必要となっていることは理解する。ただ、本計画がまとめられる最中に新型コロナウイルス感染症が世界で猛威を振るい、サプライチェーンが機能しなくなり、日本国内においても建設資材不足、電子部品不足と物価高騰が深刻です。その後も、円安とロシアによるウクライナ侵略、イスラエルによるガザ侵攻、日本国内における労働力不足も深刻です。また、下請け孫請け企業に働く労働者の賃金上げと価格転嫁が求められる社会へと変化しています。こうした背景からも、建設が始まる5年後、6年後には総工事費が70億円では取まらないことは明瞭ではないでしょうか。加えて、用地取得費として25億円が必要です。既存の体育施設の整備も行わなければなりません。他方、「失われた30年」と言われるように、教育や子育て、医療・介護の負担が増え、年金は減らされる。社会保障費の連続削減、消費税の連続増税が市民の暮らしを苦しめている。こうした市民の暮らしを考えるといま市民が望む優先施策は何なのかを見極めることが求められる。既存施設の耐震延命化による利活用を進め、本計画の縮小・延期の検討も必要になっているのではないか。</p>

発言順	質問・質疑の別	議席・氏名	質問・質疑の内容（通告原文のとおり）
3	一般質問 (一問一答)	15 岩見 博	<p>6 野代町交差点から国道8号線二日市交差点までの道路拡幅整備について</p> <p>(1) 石川県は、県施工で金沢市泉と金沢市押野2丁目交差点の間を結ぶ都市計画道路「泉野々市線」を整備することになった。開通すると国道8号線野々市二日市交差点につながるようになるが、現状は、野代町交差点から国道8号線方向に片側1車線の首のあるボトル型となっていることから、特に、稲荷方向から野代町交差点を左折する車と直進する車で渋滞が発生する状況になっている。現状のままで「泉野々市線」が開通した際には、押野方向からも含め、渋滞が一層ひどくなることが懸念される。「泉野々市線」の整備にあわせて野代町交差点周辺道路の拡幅整備をすすめる考えはないか。</p>
4	一般質問 (一問一答)	2 木谷 直子	<p>1 救命救急講習とAEDについて</p> <p>(1) AEDケースの中に三角巾を入れておけば、AED使用時には電極パッドを貼る部分以外を三角巾で覆い隠すことができるし、ケガで三角巾を使用したい場合にもAEDケースから取り出して使用することができる。ぜひ、AEDケースの中に三角巾を設置できないか伺う。</p> <p>(2) 24時間利用できるAEDをもっと増やすべきだと思うが、見解を伺う。</p> <p>2 大規模地震後の路面下空洞の調査について</p> <p>(1) 大規模地震直後には、非常に多くの新規路面下空洞が発生し、陥没危険度の高い空洞の割合も著しく増加したことが報告されている。主要な道路だけでも調査をしてはいかかが伺う。</p> <p>3 認知症について</p> <p>(1) 広く市民に、認知症の正しい知識と理解を深めてもらうために、もっと積極的に市民に働きかけていくことが大事だ。啓発のための今後の取り組みについて、伺う。</p> <p>(2) 小学生の認知症の方への手助けを学ぶ授業等で、子供たちが認知症の方への偏見をなくし理解を深めるために、体験型学習を取り入れてはいかかが伺う。</p> <p>(3) 認知症は、早期発見し対応することが重要である。違和感を覚え気になった時に、気軽にチェックできる環境の整備は非常に有意義だと思うし、気軽に相談でき、よりスムーズに受診できる体制作りが大事である。ぜひ市として取り組むべきだと考えるが、見解を伺う。</p> <p>(4) 認知症の方に「あなたを大切に思っている」ということを表現する、ケア技法「ユマニチュード」の普及に取り組んでいくべきと思うが、見解を伺う。</p>